

# 地域と学校を結ぶ コーディネーター

— 高校生の体験活動推進にむけて —

今、教育現場では地域と学校との連携が求められています。特に、高校生をはじめとする青少年の体験活動については、平成19年度から都立高校で「奉仕」が必修になることもあり、地域の中で多くの人とかかわりながら、様々な活動を推進していくことが期待されています。

そこで、今回の特集では、高校生の体験活動をより効果的に進めるためのノウハウを専門家に伺うとともに、様々な分野で青少年の体験活動推進に取り組んでいる方々を御紹介することで、地域と学校を結ぶコーディネーターの役割と重要性に迫ります。

「社団法人 日本青年奉仕協会」調査研究員の村上徹也さんにお話を伺いました。

地域の理解を得て、地域と連携していく  
ことで体験活動を充実させていく。

## 奉仕体験活動を進めるにあたって

「奉仕体験活動では、事前・活動・振り返りのサイクルを確立させることが重要です。学習計画をしっかりと立て、教科として取り入れなければいけません。計画の内容については、社会貢献することを学習し、実践することが中心となります。したがって社会と学校をつなげ、実際に活動を行うための準備が必要となります。ただ、学校にはまだそのための専門家はいません。そこで、地域の中で社会に貢献できる活動を、様々な場面において支援するための地域の人材が必要になります。

例えば、生徒の動機付けにおいては地域の協力が必要です。一般教科と違い、奉仕体験活動は動機付けが難しい部分があります。地域に貢献するためといっても、生徒にはなかなか理解できないことがあります。そこで、地域で実際に活動している人に、その意義を伝えてもらいます。

地域の協力は評価の段階でも不可欠です。振り返りにおいて、生徒のねらいが達成されたかを確認する必要がありますが、すべての活動を教師が見ることはできません。そこで、評価を支援する方法として、地域の人にアドバイスしてもらったり、活動の様子について情報をもったりします。このような情報の収集が評価につながっていきます。このように、奉仕科をより効果的に進めていくには、地域との連携は欠かせないのです。」

## 地域へのアプローチの仕方は？

「なんといっても地域への説明が重要になります。いつ、どこで、何人受け入れてもらえるかということばかり考えて体験活動を相談しても、地域の理解は得られないばかりか逆に嫌がられてしまいます。なぜこの活動をするのか地域に納得してもらわな

ればなりません。こんな子どもを育てたいというような活動のねらいを理解してもらえれば、地域、人も場所も協力してくれます。活動のねらいを明確にし、理解してもらうことが奉仕体験活動の第一歩です。

## コーディネーターの必要性について

「言葉が通じても立場の違う人が意思疎通できるかということ、なかなかできないものです。学校と地域も同様です。学校の中の物事の考え方・進め方と、地域の物事の考え方のサイクルは違います。そのままにしてもかみ合いません。そこで、地域の事情に詳しく、学校の立場も分かる人に間に入ってもらいます。これがコーディネーターです。コーディネーターは、地域と学校を結びつける働きをします。地域と連携していくためには、コーディネーターの果たす役割が重要なのです。」

## 学校側も準備を

「学校側から積極的に地域に連携を求めていくことが大切ですが、そのためには学校も、プログラムを練って、しっかり準備しておく必要があります。地域は、学校側がすべて任せきりにしてしまうのではないかと心配している場合もあります。この警戒している気持ちを、理解と支援の気持ちに変えていくことが必要です。それにはコーディネーターの働きが欠かせません。学校は、プログラムの部分には責任をもちつつ、コーディネーターと協働して、地域との連携を進めていくことが重要なのです。」

**プロフィール**  
大学卒業後ボランティア活動に従事し、ボランティアが青少年にとつて大きな学びの場であることを痛感。その後バンクラディ



ンシユで4年間ボランティア活動の推進に努め、平成14年度より2年間アメリカでボランティアの調査研究を行い、帰国後はそのノウハウを普及させるべく、今年度は奉仕カリキュラム開発委員として奉仕必修化に向けて取り組む。

NPO法人「スクール・アドバイス・ネットワーク」理事長の生重幸恵さんにお話を伺いました。

地域に踏み出し、  
地域のキーパーソンを見つけることが重要

## 体験活動を通して

「体験活動をコーディネートするときは、常にトライしたい！夢をもってやりたい！と思えるような場の提供を心がけています。高校生というのは、大学や社会に出て行くにあたり、現実に近いところで、自分は何に向いているのかを考える時期です。その中で高校生には、身近なところ、暮らしの中に仕事があるということを感じ取ってほしいです。奉仕体験活動は自分が地域で支えられながら生きていることに気付くチャンスです。」

## 大人とのかかわりの中で

「学校という世界は同年齢の集団ですが、社会は異年齢の集団

です。その中に勇気をもって飛び込み、年上の人との付き合いを恐れず、自分でできることをやってみようという意識をもってほしいです。自分が大切にされていると感じたり、本気でしかってくれる人に会ったり、自分が人の役に立っているという喜びを感じたりする中で、関心のあるものを見つけ、社会とかかわっていくことが社会貢献の第一歩です。出会った人たちとかかわって

**プロフィール**  
平成14年度「杉並区学校教育コーディネーター」制度の第一期の委託を受け、コーディネーターに就任。学校に密着して学校と



地域、及び学校と企業との連携、また、小学校、中学校、高等学校との連携、学校の教育全般について、コーディネーターとして幅広く行っている。また、学校教育支援についての講演会や、全国を駆け回るほか、学校外においても様々な形の企画を推進している。

高校生の体験活動を様々な人たちと連携して進めていく上での大切な視点について、